

第6学年 国語科学習指導案

1 単元名 作品の世界を深く味わおう 「やまなし」「イーハトーヴの夢」

2 指導観

- 本校で、6月末に行われた「学習に関するアンケート」の本学年の子どもたちの結果をみると、聞く項目としての「手遊びをせず、発表している友達の方に体を向けて聞くことができる」と答えているのは78%、書く項目としての「自分の考えをつくることができる」と答えているのは77%、と今までの取り組みの成果が見られた。しかし、話す項目としての「発表する回数が多い」と答えているのは38%、「自分の考えを話すことができる」と答えているのは49%と低い数値を示している。

1学期最初の物語文「カレーライス」で登場人物の心情の変化を読み取り、題名の役割を考えたり、説明文「生き物はつながりの中に」で要旨をとらえ、自分の考えを明確にしながら読んだりする学習の中で、自分の考えと友達の考えとの違いに気付き、話し合い活動を進めることは少しずつできるようになってきた。しかし、自分の考えと比べながら聞き、自分の考えにつなげることができるまでには至っていない。また、小グループでの話し合いや全体の話し合いを通して、より高まった考えを作り上げるまでには至っていない。

- 本単元は、宮沢賢治の物語「やまなし」と資料として添えられた宮沢賢治の伝記「イーハトーヴの夢」とからなっている。

「やまなし」は、比喩表現や擬声語・擬態語など、宮沢賢治の独特な表現が駆使された象徴的で深い思想をもつ作品である。一つの言葉、重なった言葉がもつ響きやリズム、イメージを大切に読み味わうことができる。

「イーハトーヴの夢」は、宮沢賢治の世界に深くかかわる筆者が、小学生向けに書きおろした評伝である。この文章を読むことで、子どもたちは先に読んだ「やまなし」という物語を書いた一人の人間の生き方に触れることができる。広い知識と高い理想をもつ賢治を知り、その賢治が書いた他の世界への興味を深めるものと思われる。そして確固たる理想のもとに切実に生きることへの問いかけを繰り返した力に触れることができる。

宮沢賢治の作品を通して自然や社会の厳しさに揉まれながらも自然や人とともに生きる賢治の人生に触れることは、これからの生き方を考える6年生にとって意義深く、子どもたちの活発な話し合い活動が展開できると考える。

- 本単元の指導にあたっては、まず、「やまなし」という題名について考えさせる。既習学習を想起させ、題名の働きを意識させる活動を通して、作品に対するイメージをふくらませる。そして、題名と冒頭文から「二枚の青い幻灯で作者が伝えたいことはどんなことだろう」という読みのめあてをつくり、学習の見通しを立てる。

次に、読み深める段階では、①「五月」と「十二月」の幻灯の情景の様子②「かわせみ」と「やまなし」のかにの兄弟達にとっての意味③なぜ、題名を「やまなし」と

したのか，という三つの視点に沿って，比喩表現や豊かな情景を想像しながら読み深めていき，作者が「二枚の幻灯で作者が伝えたかったこと」について大まかにまとめさせる。

その際，めあてに対する自分の考えを組み立てるために書く活動を設定する。書かれている叙述や言葉を大切に自分の考えをまとめ，自分の考えの根拠を話すことができるようにする。子どもによって個人差があるので，机間指導をし，しっかりと自分の考えをもたせるようにする。

考えを書いた後の話し合い活動では，小グループの話し合いを取り入れ，自分の考えを話したり，友達の考えを聞いたりする活動を取り入れる。自分の考えを話すときは自分の考えの根拠となる言葉や文を明確にして発表させ，聞くときは，わからないこと，疑問に思うこと，詳しく知りたいことなどを確かめる意識をもって聞くようにさせる。この小グループの話し合いは，自分の考えを確かめる場やある程度の結論を出す場と位置づける。また，話し合いの視点によって，少人数から全体，全体から少人数という形態を取り入れていく。これらの小グループの話し合いをもとにして全体で話し合い，子どもたちの考えがより深まりや広がりがあるものへと高めていく。また，前時とつないだり，比べたりしながら活発な話し合いができるように，前時までの学習の足跡や発表の仕方などを掲示しておく。さらに学習の振り返り活動を取り入れ，話し合い活動を通しての自分の考えの深まりや広がりを書きまとめることで，学習した読み方や話し合いの仕方を確認していくようにする。

読みのまとめの段階では，資料「イーハトーヴの夢」を読み，宮沢賢治の生き方や考え方を読み取った後，もう一度「やまなし」にもどり，「やまなし」で作者が伝えたかったことを賢治の生き方や考え方と関連付けて，より確かなものにさせる。最後に，宮沢賢治の人生と重ねながら，「やまなし」を読んだ読み方を振り返り，今後の読書生活の中でも生かしていけるように意識づけたい。

3 単元目標

- 場面についての描写をとらえ，作品の中で使われている表現を味わいながら，優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。
- 目的に応じて，複数の本や文章を比べて読み，効果的な読み方を工夫することができる。
- 話し手の意図をとらえ，自分の考えと比べて，小グループや全体で話し合うことができる。

4 学習指導計画：9時間

(手だて ※1自分の考えをつくる活動 ※2話し合い活動 ※3振り返り活動 ※**環境**)

時	主な学習活動と内容	教師の支援と手だて
1	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">題名と冒頭文から、読みのめあてをつくり、感想を書くことができる。</p> <p>1 本時のめあてを確認する。 2 単元名と冒頭文を読んで、学習課題を確認する。</p> <p>3 題名「やまなし」について話し合う。 4 題名と冒頭文を読み、読みのめあてを作る。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">読みのめあて 二枚の青い幻灯で作者が伝えたいことはどんなことだろう。</p> <p>5 全文を音読する。 6 初発の感想を書く。</p>	<p>○本単元は、「やまなし」「イーハトーヴの夢」の複合単元であることを知らせ、どのような学習をしていくかを説明する。</p> <p>○冒頭文を読み、この単元では、作品のみを読み取っていくのではなく、作者や他の作品にも目を向け、作者のものの見方や考え方、生き方を探っていく学習であることをとらえさせる。</p> <p>○題名「やまなし」からどんな感じがするか、わかることや疑問に思うことを話し合わせる。</p> <p>○冒頭文の叙述に立ち止まらせ、疑問を書き込ませる。</p> <p>○最初は教師が範読して、音読の仕方や難しい語句について確かめる。</p> <p>○楽しかったところや、不思議だったこと、想像したことなどを書かせる。</p>
2	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">感想をもとに、学習の見通しを立てることができる。</p> <p>1 本時のめあてを確認する。 2 感想をもとに話し合い、学習の見通しをもつ。</p>	<p>○読みのめあての答えを予想する。</p>
3	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「五月」の谷川の情景を読み取ることができる。</p> <p>1 本時のめあてを確認する。 2 「五月」の場面を音読する。</p>	<p>○前時を想起し、めあてを意識づける。</p> <p>○擬声語や擬態語、比喻表現の効果に着目しながら、イメージを膨らませる。</p> <p>※2「五月」の谷川の「水の様子」や「色」に関わる言葉や文を見つけ、線を引かせ、読み取ったことを小グループで話し合い、全体で発表できるようにする。</p> <p>※環境話し合い方とその手順をもとに、話し合うことができるようにする。</p>

	<p>3 水の様子や色，擬声語や擬態語，比喩表現に着目しながら，「五月」の様子を話し合う。</p> <p>4 学習の振り返りをする。</p>	<p>○自由に意見を出し合いながら，想像を楽しんでいくようにする。</p> <p>○川の様子が目に浮かぶように板書し，視覚的にイメージしやすいようにする。</p> <p>※3 友達の考え方とつなぎながら，話し合いができたかを意識できるようにする。</p>
4	<div data-bbox="344 533 1410 618" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「かわせみ」の出現で変化していく「かのにの親子」の様子に着目して，谷川の情景を読み取ることができる。</p> </div> <p>1 本時のめあてを確認する。</p> <p>2 「五月」の場面を音読し，前時に学習したことを振り返る。</p> <p>3 「かのにの会話や様子」，「かわせみ」などから，「五月」の様子を想像する。</p> <p>4 「五月」の場面から読み取ったことをまとめる。</p> <p>5 学習の振り返りをする。</p>	<p>○前時を想起し，めあてを意識づける。</p> <p>※2 前時の図を再度用いて，魚の動き，かわせみの動きが分かるところに線を引かせ，読み取ったことを小グループで話し合い，全体で発表できるようにする。</p> <p>※<u>環</u>話し合い方とその手順をもとに，話し合うことができるようにする。</p> <p>○「かわせみ」の出現前後での川の様子に着目させる。</p>
5	<div data-bbox="336 1160 1402 1211" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「十二月」の谷川の様子や情景を読み取ることができる。</p> </div> <p>1 本時のめあてを確認する。</p> <p>2 「十二月」の場面を音読する。</p> <p>3 「十二月」の谷川の様子とかのにの兄弟の様子を読み取り，話し合う。</p> <p>4 「十二月」の場面から読み取ったことをまとめる。</p> <p>5 学習の振り返りをする。</p>	<p>○前時を想起し，めあてを意識づける。</p> <p>○擬声語や擬態語，比喩表現の効果に着目しながら，イメージを膨らませる。</p> <p>○川の様子が目に浮かぶように板書し，視覚的にイメージしやすいようにする。</p> <p>※2 「十二月」の谷川の「水の様子」やかのにの兄弟の様子が分かる文を見つけ，線を引かせ，読み取ったことを小グループで話し合い，全体で発表できるようにする。</p> <p>※<u>環</u>話し合い方とその手順をもとに，話し合うことができるようにする。</p> <p>○「やまなし」が落ちてきたときの様子に着目させ，「かわせみ」が出現した時との違いに気づかせる。</p>

<p>6</p> <p>6の26 の4本時 6/9</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「五月」と「十二月」の場面を比べて、宮沢賢治が二枚の幻灯を通して伝えたかったことを考えることができる。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 1 本時のめあてを確認する。 2 「五月」と「十二月」で、宮沢賢治が伝えたかったことを話し合う。 3 題名を「やまなし」とした理由を話し合う。 4 学習の振り返りをする。 	<p>○前時を想起し、めあてを意識づける。</p> <p>※2 自分の考えとの共通点・相違点を考えながら、代表児の提案を聞くようにさせる。</p> <p>※2 結論がある程度話し合えるように、小グループ（3人1組）で話し合わせる。</p>
<p>7</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考えのもとになった出来事や作品が生まれた背景などを年表にまとめることができる。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 1 本時のめあてを確認する。 2 「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考えのもとになった出来事、作品が誕生した背景などを年表にまとめる。 3 学習の振り返りをする。 	<p>○前時を想起し、めあてを意識づける。</p> <p>○全文を読み、年号が分かる言葉に線を引かせる。</p> <p>○年号が明確ではないが、確定できそうなものにも線を引かせる。</p> <p>○年号に沿って、賢治の生きていた時代、行動、世の中の出来事、賢治の考え方や作品という観点で表にさせる。</p>
<p>8</p> <p>6の16 の3本時 8/9</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>『イーハトーヴの夢』で読み取ったことと関連させて、作者が「やまなし」を通して伝えたかったことを考えることができる。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 1 前時を想起し、本時のめあてを確認する。 (1) 『イーハトーヴの夢』で読み取ったことを確認する。 (2) めあてを確認する。 2 書いたことをもとに話し合う。 3 グループで話し合ったことを全体で話し合う。 4 学習の振り返りをする。 	<p>○前時を想起し、めあてを意識づける。</p> <p>※環掲示物を指し示しながら、前時学習を想起できるようにする。</p> <p>※2 自分の考えとの共通点・相違点を考えながら聞くようにさせる。</p> <p>※2 自分の考えと友達の考えを比較して、計画的に話し合うことができるようにする。 →意見の多いほうから出させる。</p> <p>※2 小グループ（3人1組）で話し合わせる。</p>

9	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">読んできた宮沢賢治の本を紹介し合い、感想を話し合うことができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本時のめあてを確認する。 2 これまでに、並行読書してきた、宮沢賢治の作品を紹介し合う。 3 「本は友達」を読んで、読み広げたり読み深めたりする観点を確認する。 4 学習の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時を想起し、めあてを意識づける。 ○「やまなし」との共通点や関連性など、気がついたこと発見したことなどに関連付けるようにする。 ○この観点は、今後の読書生活の中でも、生かしていけることを意識づける。
---	--	---

第6学年 組 本時学習指導案

5 本時（6／9）

6 本時の目標

- 「五月」と「十二月」の場면을比べて、宮沢賢治が二枚の幻灯を通して伝えたかったことを読み取ることができる。
- 自分の考えと友達のことを比較し、違うところに注目しながら、話し合いをすることができる。

7 本時指導の考え方

本時は、かへの兄弟にとってのかわせみ、やまなしの意味をとらえ、題名が「やまなし」になっていることとつないで考え、作者の伝えたかったことを読み取ることができることをねらいとしている。

本学級の子どもたちは、句点に気をつけて元気よく音読をしたり、自分の考えを文章にしたりすることができるようになってきた。また、題名と冒頭文をつないで、読みのめあてをつくったり、言葉に着目して「はてな」を見つけ、叙述をもとに答えを見つけたりすることを楽しむようになってきた。しかし、伝え合いの段階では、相手に分かるようにはっきり伝えることがまだ苦手である。自分の考えに自信がもてるように、「書いて自分の考えを作ること」や「小グループでの話し合い」を計画的に行うことで、活発な話し合いができるようにしていきたい。

そこで本時指導では、はじめに、かへの兄弟にとってのかわせみの意味について代表児に提案させ、全体で話し合わせる。かわせみの様子を表した比喩表現やかへの様子から、かわせみはかへの兄弟にとって、「得体の知れない怖さ」であることをおさえる。また、かわせみが飛び込んできた後のかへの会話から、かわせみが「死の恐怖」であることを読み取っていく。

次に、かへの兄弟にとってのやまなしの意味について考える。二枚の幻灯が、対比的に書かれていることを確認した後で、かわせみが「死の恐怖」だとすると、やまなしはどう表現できるかを問いかけ、小グループでの話し合いをさせていく。

そして、話し合ったことを発表し、かわせみが「死の恐怖」だったのに対し、やまなしは「生の喜び」であるととらえていくようにする。また、かわせみとやまなしを対比的にとらえて自分の言葉で表現している児童を紹介し、そのよさを広めていくようにする。

それから、題名が「やまなし」になっている理由について考えさせる。「十二月」を後に書いていることや「やまなし」が「生の喜び」として表現されていたことから、作者は「生の喜びを与えるもの」に思い入れがあることをとらえさせていきたい。

最後に、本時学習の振り返り際には、友達の発表のよかったところや話し合いでの自分の変容について書くことで、自分の考えの深まりや広がり気付くことができるようにしたい。

8 準備

- 教師 これまでの学習の足跡の掲示
- 児童 教科書 学習プリント

9 本時の展開 ※1自分の考えをつくる活動 ※2話し合い活動 ※3振り返り活動 ※**環境**

学習活動と内容	教師の支援と手立て
<p>1 前時を想起し、本時のめあてを確かめる。</p> <div data-bbox="197 465 1406 562" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて 「五月」と「十二月」の場面を比べて、宮沢賢治が伝えたかったことを考えよう。</p> </div>	<p>※1前時に「五月」と「十二月」それぞれの場面が表すものを考え書かせておく。 ※環学習の足跡の掲示物から、前時までの学習を想起できるようにする。</p>
<p>2 「五月」が表すものを話し合う。</p> <p>(1) 代表児の提案を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然のこわさ ・死の世界 等 <p>(2) かわせみの様子を表す比喻表現やかにかの様子から「こわさ」について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声も出ず居すくまって… ・ぶるぶるふるえて… <p>(3) かわせみの様子を表す比喻表現から「こわさ」について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぎらぎらする鉄砲玉のようなもの… ・コンパスのように黒くとがっている… <p>3 「十二月」が表すものを話し合う。</p> <p>(1) かにかの会話や様子から「楽しさ」について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やまなしの後を追いました。 ・おどるようにして…追いました。 <p>(2) やまなしが表すものについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生の喜び ・自然のめぐみ <p>4 題名を「やまなし」とした理由を話し合う。</p> <p>5 本時学習をまとめ、振り返る。</p> <p>(1) 本時学習をまとめる。</p>	<p>※2代表児は、根拠となる叙述をはっきりさせて発表させる。 ※2自分の考えとの共通点・相違点を考えながら、聞かせる。</p> <p>○かわせみが飛び込んできたときのかにかの兄弟の様子やかわせみの様子を表す比喻表現について話し合い、得体のしれないものに対する「恐怖」であると方向付ける。</p> <p>○かわせみについてのかにかの親子の会話に着目させ、かにかにとってかわせみは「死の恐怖を与えるもの」であることに気付かせる。</p> <p>○「五月」と対比して、かにかの会話や様子の違いに気付かせ、「十二月」では「やまなし」を楽しみにしていることを読み取らせる。</p> <p>○対比になっていることをおさえて、やまなしが表すものについて考えさせる。</p> <p>※3小グループで、やまなしが表しているものを話し合う。</p> <p>○二枚の幻灯で「十二月」が後に書かれていることやかにかにとっての意味から考えさせる。</p>
<div data-bbox="197 1727 1406 1877" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○厳しい中にも喜びがあることを伝えたかった。 ○死の世界と生の世界の中で、かにかの兄弟が成長していることを伝えたかった。 </div>	
<p>(2) 「今日の学習で」を書く。</p>	<p>※「今日の学習で」に、友達の発表のよかったところや話し合いでの自分の変容について書くことで、自分の考えの深まりや広がり気付くことができるようにする。</p>

第6学年 組 本時学習指導案

5 本時（6/9）

6 本時の目標

- 「五月」と「十二月」の場面を比べて、宮沢賢治が二枚の幻灯を通して伝えたかったことを読み取ることができる。
- 自分の考えと友達のことを比較し、違うところに着目しながら、話し合いをすることができる。

7 本時指導の考え方

本時は、かへの兄弟にとってのかわせみ、やまなしの意味をとらえ、題名が「やまなし」になっていることとつないで考え、作者の伝えたかったことを読み取れることをねらいとしている。

本学級の子どもたちは、句点に気をつけてある程度の速さで音読をしたり、題名と冒頭文をつないで、読みのめあてをつくったりすることが少しずつできるようになってきた。また、文の中の一つ一つの言葉に着目しながら、自分の考えをもつことはできている。しかし、伝え合いの段階では、自分の考えに自信がなく、考えが書けているのに全体場で伝えることが苦手な子が多い。

そこで本時指導では、はじめに、「五月」が表すものについて話し合う。代表児の提案を聞き、かへの会話や様子から、怖さについて話し合わせる。かわせみの様子を表した比喻表現からかわせみはかへの兄弟にとって、「得体の知れない怖さ」であることをおさえる。また、かわせみが飛び込んできた後のかへの会話から、かわせみが「死への恐怖」であることを読み取っていく。

次に、「十二月」が表すものについて話し合う。二枚の幻灯が、対比的に書かれていることを確認した後で、かわせみが「死への恐怖」だとすると、やまなしはどう表現できるかを問いかけ、小グループでの話し合いをさせていく。そして、話し合ったことを発表し、かわせみが「死への恐怖」だったのに対し、やまなしは「生への喜び」としてとらえていくようにする。また、かわせみとやまなしを対比的にとらえて自分の言葉で表現している児童を紹介し、そのよさを広めていくようにする。

それから、題名が「やまなし」になっている理由について考えさせる。小グループで話し合い、「十二月」を後に書いていることや「やまなし」が「生への喜び」として表現していたことから、作者は「生への喜びを与えるもの」に価値を見出していることをとらえさせていきたい。

最後に、本時学習の振り返りをする。話し合いの中で、友達のよかったところや話し合いでの自分の考えの変容について書くことで、自分の考えの深まりや広がり気付くことができるようにしたい。

これらの学習を通して、自分の考えをもち、友達の考えと比べて聞き、話し合う活動をおこなうことで、自分の考えを意欲的に伝え合うことができる子どもの育成を図りたい。

8 準備

- 教師側 これまでの学習の足跡の掲示
- 児童側 教科書 学習プリント

9 本時の展開 (※1自分の考えをつくる活動 ※2話し合い活動 ※3振り返り活動 ※環境)

学習活動と内容	教師の支援と手立て
<p>1 前時を想起し、本時のめあてを確かめる。</p> <div data-bbox="201 421 1409 510" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて 「五月」と「十二月」の場面を比べて、宮沢賢治が伝えたかったことを考えよう。</p> </div>	<p>※1前時に「五月」と「十二月」それぞれの場面が表すものを考え書かせておく。</p> <p>※環境学習の足跡の掲示物から、前時までの学習を想起できるようにする。</p>
<p>2 「五月」が表すものを話し合う。</p> <p>(1) 代表児が提案をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然の怖さ ・厳しさ <p>(2) かにの会話や様子から、怖さについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声も出ず、居すくまって… ・ぶるぶるふるえて… <p>(3) かわせみの様子を表す比喻表現から、怖さについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぎらぎらする鉄砲だま ・コンパスのように黒くとなっている <p>3 「十二月」が表すものを話し合う。</p> <p>(1) かにの会話や様子から、楽しさについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やまなしの後を追いました ・おどるようにして…追いました <p>(2) やまなしが表すものについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生の喜び ・楽しみ ・自然のめぐみ <p>4 題名を「やまなし」とした理由を話し合う。</p> <p>5 本時学習をまとめ、振り返る。</p> <p>(1) 本時学習をまとめる。</p>	<p>※2代表児に、根拠となる叙述をはっきりさせながら発表させる。</p> <p>※2自分の考えとの共通点・相違点を考えながら、聞かせる。</p> <p>○かわせみが飛び込んできたときのかにの兄弟の様子やかわせみの様子を表す比喻表現について話し合い、得体のしれないものに対する「恐怖」であると方向付ける。</p> <p>○かわせみについてのかにの親子の会話に着目させ、かににとってかわせみは「死の恐怖を与えるもの」であることに気付かせる。</p> <p>○「五月」と対比して、かにの会話や様子の違いに気付かせ、「十二月」では、「やまなし」を楽しみにしていることを読み取らせる。</p> <p>○対比になっていることをおさえ、やまなしが表すものについて考えさせる。</p> <p>※3小グループで、やまなしが表しているものを話し合わせる。</p> <p>○二枚の幻灯で「十二月」が後に書かれていることやかににとっての意味から考えさせる。</p>
<div data-bbox="201 1664 1409 1832" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ</p> <p>○宮沢賢治は、厳しい中にも喜びがあることを伝えたかった。</p> <p>○恐怖と喜びの世界を通して、かにの兄弟が成長していることを伝えたかった。</p> <p>○厳しさを乗り越えれば、喜びや楽しさが訪れることを伝えたかった。</p> </div>	
<p>(2) 「今日の学習で」を書く。</p>	<p>※3「今日の学習で」に、友達の発表のよかったところや話し合いでの自分の変容について書くことで、自分の考えの深まりや広がりにつづいていくことができるようにする。</p>

第6学年 組 本時学習指導案

5 本時（8/9）

6 本時の目標

- 作者が「やまなし」を通して伝えたかったことを「イーハトーブの夢」で読み取った宮沢賢治の生き方や考え方と関連付けて考えることができる。
- 自分の考えと友達の考えを比較し、違うところに着目しながら、話し合いをすることができる。

7 本時指導の考え方

本時は、「イーハトーブの夢」を読んだ後、もう一度「やまなし」にもどって、作者が「やまなし」を通して伝えたかったことを考える学習である。宮沢賢治の生き方や考え方と関連づけ、作者が「やまなし」を通して伝えたかったことについて、自分なりの考えを持ち、話し合い活動を行うことで、自分の考えを深めていくことをねらいとしている。

そのために本時指導にあたって、次の手だてをとっていく。

前時学習で「イーハトーブの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方について年表にまとめる活動を行った後に、作者が「やまなし」で何を伝えたかったのかについて自分の考えを学習プリントに書きまとめている。その際、考えの根拠となるわけを今までの学習とつないで書き込むようにさせる。

本時ではまず、掲示物を使って、前時に学習した賢治の生き方や考え方について確認を行う。

次に、作者が「やまなし」で何を伝えたかったのかについて、考えの違う3名の代表児に提案発表をさせる。聞くときは、自分の考えがどの考えに似ているのかを考えながら聞かせる。

提案発表を聞いた後は、まず、似ている考えについてのわけを付け加えさせていく。そして、提案発表以外の考えの発表をさせ、全員の考えを明らかにしていく。

それをもとに、少人数のグループで考えの話し合いを行う。その際、「話し合いの仕方とその手順」を使い、自分の考えと友達の考えの相違点や共通点を見つけながら、自分の考えを深めていくことができるようにしていく。自分の考えが変わったり、自分の考えに付け加わったりして、賢治が「やまなし」で何を伝えたかったのかについて少人数で結論をある程度話し合うことができるようにしたい。

最後に、全体での話し合い活動で「自然の中の命」や「幸せ（喜び）を与える生き方」などについて自分の考えの広がりや深まりについて話し合い、本時学習をまとめていくようにする。

学習の終わりに自己評価による振り返りの活動を取り入れる。本時学習の話し合い活動の中で、友達の発表の良かったところや話し合いの中での自分の考えの変容を振り返り、自分の考えの広がりや深まりについて気付くことができるようにしていく。

これらの学習の流れで、自分の考えを持ち、比べて聞き、話し合うという活動を行うことで、考えを伝え合うことができる子どもの育成を図りたい。

8 準備

- 教師 これまでの学習の足跡の掲示 学習プリント
- 児童 学習プリント 教科書

9 本時の展開 (※1自分の考えをつくる活動 ※2話し合い活動 ※3振り返り活動 ※**環境**)

学習活動と内容	教師の支援と手立て
<p>1 前時を想起し、めあてを確認する。</p> <p>(1)「イーハトーブの夢」で読み取ったことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮沢賢治の言葉から ・宮沢賢治の行動から ・宮沢賢治の理想から <p>(2) 本時学習のめあてを確認する。</p>	<p>○賢治が、自然の厳しさを知り、そのうえでそれを愛するとともに、自然と心を通わせながら、共に生きていきたいと願っていたことを確認する。</p> <p>※環境学習の足跡の掲示物を使い、前時学習を想起できるようにする。</p>
<p>めあて 「イーハトーブの夢」で学習した賢治の生き方や考え方と関連させて、「やまなし」を通して、宮沢賢治は何を伝えたかったのか考えよう。</p>	
<p>2 代表児の提案をもとに話し合う。</p> <p>(1)「やまなし」を通して何を伝えたかったのか、代表児が提案発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然の中の命 ・幸せ(喜び)を与える生き方 ・共に生きる喜び <p>(2) 提案発表の考えをもとに話し合う。</p> <p>○似ている考えについてわけを付け加える。</p> <p>○提案発表以外の考えを発表する。</p> <p>(3) 全体で出された考えを受けて小グループで話し合う。</p> <p>(4) 全体で話し合う。</p> <p>○小グループで話し合ったことをもとに話し合う。</p>	<p>※1 前時に自分の考えの書き込みをしておかせる。</p> <p>○子どもたちの考えの傾向を把握し、代表児を選んでおく。</p> <p>※2 代表児は、根拠をはっきりさせて発表させる。</p> <p>○提案発表は、意見を活発に出しやすいように、多い方の意見から出させていく。</p> <p>※2 自分がどの考え方に似ているかを考えながら聞くようにさせる。</p> <p>※環境話し合いの仕方とその手順を活用させる。</p> <p>※2 自分の考えとの共通点・相違点を考えながら聞くようにさせる。</p> <p>※2 結論がある程度、話し合えるように、小グループの人数を3人にする。</p> <p>○再度、題名の役割について考え、題名に込められた賢治の思いと賢治の生き方や考え方を関連づけて考えを深めることができるようにする。</p>
<p>まとめ やまなしは、落ちてしまっても、またお酒になって他の人に喜びを与えている。宮沢賢治は「やまなし」を通して、人は、人に幸せや喜びを与える存在でありたいということを伝えたかったと考える。</p>	
<p>(2)「今日の学習で」を書く。</p>	<p>※3 「今日の学習で」に、友達の発表のよかったところや話し合いでの自分の考えの変容について書くことで自分の考えの深まりや広がり気づくことができるようにする。</p>

第6学年 組 本時学習指導案

5 本時（8/9）

6 本時の目標

- 「イーハトーブの夢」で読み取った賢治の生き方や考え方と関連させて、作者が「やまなし」を通して伝えたかったことを考えることができる。
- 自分の考えと友達の考えを比較し、違うところに着目しながら、話し合うことができる。

7 本時指導の考え方

本時は、『「やまなし」を通して作者が伝えたかったこと』について自分なりの考えを持ち、話し合い活動を行うことで、考えを深めていくことをねらいとしている。

そのために、次のような指導を行っていく。

前時学習において『イーハトーブの夢』で読み取ったことをもとに、宮沢賢治の生き方や考え方について、自分の考えをまとめる活動をおこなう。その際、できるだけ叙述を根拠にしながら考えをもてるようにする。そして、作者が「やまなし」を通して伝えたかったことについて学習プリントに自分の考えをまとめ、書き込みをさせておく。

本時ではまず、前時で学習した賢治の生き方や考え方について掲示物を使って振り返り、確認する。次に、作者が「やまなし」を通して伝えたかったことについて、考えたことを代表児3人に発表させる。その際、他の子どもには自分がどの考えに似ているかを考えながら聞かせる。代表児の発表の後自分と似ている考えについて、その理由を付け加えさせる。さらに、代表児以外の考えの子どもにも発表させ、全員の考えを明らかにする。

それをもとに、少人数のグループでの話し合いを行う。その際、自分の考えと友達の考えの相違点や共通点を見つけながら話し合い、考えが深まり広がることで、変わってもよいことを確認しておく。

最後に、全体で話し合いを行い、子どもの言葉を使ってまとめを行う。

その後、振り返りの活動を行い、自分の考えの変容や深まりについて考えることができるようにしていく。

これらの学習の流れで、自分の考えをもち、話し合い、比べるという活動を行うことで、自分の考えを伝え合うことができる子どもの育成を図る。

8 準備

- 教師 これまでの学習の足跡の掲示 学習プリント
- 児童 学習プリント 教科書

9 本時の展開 (※1自分の考えをつくる活動 ※2話し合い活動 ※3振り返り活動 ※**環境**)

学習活動と内容	教師の支援と手立て
<p>1 前時を想起し、めあてを確かめる。</p> <p>(1) 『イーハトーブの夢』で読み取ったことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮沢賢治の言葉から ・宮沢賢治の行動から ・宮沢賢治の理想から <p>(2) 本時学習のめあてを確認する。</p>	<p>○人と自然との関わりを宮沢賢治がどのように考えていたのかを確認する。</p> <p>※環境学習の足跡の掲示物を指し示しながら、前時学習を想起できるようにする。</p>
<p>めあて 「イーハトーブの夢」で学習した宮沢賢治の生き方や考え方を通して、宮沢賢治が「やまなし」で伝えたかったことは何かを考えよう。</p>	
<p>2 書いたことをもとに話し合う。</p> <p>(1) 「やまなし」を通して作者が言いたかったことは何か、考えたことを代表児が発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然に勝つために力を合わせる必要がある。 ・互いにやさしい心が通い合わなければいけない。 ・妹の死と魚の死を比べて。 <p>(2) 代表児から出された意見に対して、それぞれの考え方や意見を出し合う。</p> <p>○似ている考えについて付け加えをする。</p> <p>○代表児以外の考えの発表をする。</p> <p>(3) 出された意見に対してもう一度小グループで話し合う。</p> <p>3 小グループで話し合ったことを全体で話し合う。</p> <p>4 本時学習をまとめ、振り返る。</p> <p>(1) 本時学習をまとめる。</p>	<p>※1前時に、作者の伝えたかったことを書かせておく。</p> <p>○子どもたちの考えの傾向を把握し、代表児を選んでおく。</p> <p>○自分がどの考え方に似ているかを考えながら聞かせるようにする。</p> <p>※2自分の考えとの共通点・相違点を考えながら聞くことができるようにする。</p> <p>※環境話し合いの仕方とその手順を活用させる。</p> <p>※2自分の考えと友達の考えの違うところに着目し、話し合うことができるようにする。 →意見の多い方から出させる。</p> <p>※2結論がある程度話し合えるように、3人1組のグループで話し合わせる。</p> <p>○自分の考えがどの考えと近いかを考えながら聞くようにする。</p> <p>※2子どもたちの言葉でまとめるようにする。</p>
<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 厳しい自然の中で生きるために、みんなで力を合わせ、優しさを持たなければいけない。 ○ 奪われる命よりも与え、はぐくむ命のほうが大切である。 	
<p>(2) 「今日の学習で」を書く。</p>	<p>※3自分の考えと友達の考えを比べて聞くことで、自分の考えがどのように深まり広がったのかを記述できるようにする。</p>

